

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		福祉有償運送事業運営協議会運営事業				本年度担当課	介護保険課	
						前年度担当課	介護保険課	
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいつくりの促進			任意・義務	義務的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	03	01	01	福祉有償運送事業運営協議会運営事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成27年度 ~			
根拠法令・条例等		福祉有償運送運営協議会設置要綱、道路運送法						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）												
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）					令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）							
福祉有償運送について、適正な運営を確保するために必要な事項を運営協議会で協議する。					R5年3月 福祉有償運送事業運営協議会の開催（書面開催）							
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・（福）とちのみ会（更新）</li> <li>・（特非）まごの手（更新）</li> <li>・（特非）グリーン（更新）</li> </ul>							
					活動指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）	
					協議会の開催回数	回	2	1	4	4	4	
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）												
福祉有償運送事業者					対象指標	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）	
					福祉有償運送事業者数	箇所	8	8	8	8	8	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
福祉有償運送の必要性、旅客から収受する対価等について協議し、協議が調ったことを証する書類を作成する。					成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					更新申請のための書類の作成	式	目標	3	3	2	3	3
					新規申請のための書類の作成	式	実績	3	3			
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
65歳以上の高齢者が多様な活動に参加してもらい、域外をもって生活できるようにする。地域で高齢者を支える人が増え、その活動が推進される。					上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					ふれあいサロンの年間参加人数	人	目標	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
					老人福祉センター年間利用人数	人	実績	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度（実績）	R4年度（実績）	R5年度（目標）	R6年度（目標）	R7年度（目標）	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
	人件費	職員従事工数	人工	0	2	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	14,574	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	14,574	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	福祉有償運送事業運営協議会運営事業	本年度担当課	介護保険課
		前年度担当課	介護保険課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	栃木県から権限移譲されたため平成27年度より開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	本市では外出支援施策として「高齢者タクシー」「障がい者福祉タクシー」「高齢者外出支援事業」の3事業を実施しているが、利用者が限定されていることから、一定の成果はあるものの移動に制約がある方へのきめ細かいニーズへの対応が求められている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持により対象外

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
更新申請のための書類の作成が適正に行われており、目標が達成できた。		事業が適正に行われているため、従来どおり実施する。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		敬老祝金贈呈事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	高齢福祉係	
政策 体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいつくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	03	01	03	敬老祝金贈呈事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成2年度 ~			
根拠法令・条例等		佐野市敬老祝金条例						

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
長寿を祝福し敬老の意を表するため、88歳及び100歳の方に敬老祝金を贈呈する。100歳の方には、慶祝事業として、慶祝状、記念品を贈呈する。				88歳及び100歳の方を対象とし、年齢に応じた敬老祝金を贈呈した。100歳の方については市長が在宅の該当者宅を訪問し、慶祝状等を贈呈した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、祝金は口座振込とした。						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				敬老祝金の贈呈者数	人	742	686	791	830	870
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市内在住の年度内に88歳、100歳に達する方。(9月1日現在で生存していること)				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				65歳以上高齢者数	人	36,223	36,196	35,931	35,995	36,059
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
長寿を祝い、生きがいを持ってもらう。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				対象者の割合	%	目標 2	2	2	2	2
						実績 2	1.9			
						目標				
						実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
生きがいを持って生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				ふれあいサロン参加者数	人	目標 62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
						実績 40,586	40,845			
				老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000	84,200	106,300	128,400	150,500
						実績 56,600	56,908			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	18,191	17,170	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	18,191	17,170	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報償費	16,680		
					委託料	337		
				役務費	125			
				需用費	29			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.03	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	219	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	18,191	17,389	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	敬老祝金贈呈事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	高齢福祉係

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	国、県にも100歳慶祝事業があり、平成2年度から市の事業として実施するようになった。平成24年度から、77歳の祝金を廃止した。令和2年度から、99歳、101歳以上の祝金を廃止した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口、高齢化率ともに上昇している。100歳に達する方の人数も少しずつ増加している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	外部評価委員から、77歳の祝金は廃止すべきとの意見があり廃止した。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（コストの見直し）	現状維持

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びつきが見直しの余地がある	市でなければできない	対象・意図を見直す必要がある	事業費・人件費共に削減の余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上の余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
年度によって対象者に変動がある。また、死亡、転出などにより、該当者でなくなる人が多かったため。		長寿を祝福し祝金を配付することで節目の年が目標となり、生きがいを持って過ごすことができることから、楽しみにしている人も多い。一定の成果は出ている。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業のやり方改善（コストの見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 対象者の見直しによる敬老祝金の段階的な廃止	敬老祝金については、対象となる節目の年を目標にして、楽しみにしている人も多いことから、市民の理解を得る必要がある。
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名 高齢者生きがい活動支援通所事業				本年度担当課		いきいき高齢課	
				前年度担当課		いきいき高齢課	
政策 体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	任意的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		
	一般	03	01	03	高齢者生きがい活動支援通所事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成13年度 ~		
根拠法令・条例等 佐野市高齢者生きがい活動支援通所事業実施要綱							

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)														
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)										
家に閉じこもりがちな高齢者に対し、通所の場を設けて各種のサービスを提供することにより、社会的孤立感の解消、自立生活の支援及び介護予防を図る。 市内5箇所で開催しており、地区社協、運営委員会、社協に事業委託している。 実施回数は、週1回程度となっている。予算はすべて委託料。				家に閉じこもりがちな高齢者に対し、通所の場を設けて各種サービスを提供することにより、社会参加を促進し、社会的な孤立感の解消、自立生活の助長を図った。										
								活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
								事業の参加者数	人	1,191	1,853	2,000	2,200	2,400
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)														
おおむね60歳以上の自立した生活を営んでいる方。				対象指標				単位						
				60歳以上の高齢者数				人	R3年度 (実績) 43,978	R4年度 (実績) 43,643	R5年度 (目標) 43,700	R6年度 (目標) 43,800	R7年度 (目標) 43,900	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)														
地域の活動に参加してもらえる高齢者、介護をいつまでも必要としない高齢者を増やしていく。				成果指標				単位						
				介護予防教室の延べ参加者数				人	目標	9,504	10,008	10,500	10,548	10,560
								実績	5,022	6,767				
ハツラツ元気体操取組団体				か所	目標	50	55	60	65	70				
				実績	25	25								
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)														
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。				上位成果指標				単位						
				ふれあいサロン参加者数				人	目標	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
								実績	40,586	40,845				
老人福祉センター利用者数				人	目標	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500				
				実績	56,600	56,908								

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,394	2,739	0	0	0	
	一般財源	千円	1,605	1,732	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	3,999	4,471	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	4,471		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.09	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	656	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,999	5,127	0	0	0	

B表（事後評価シート）

事務事業名	高齢者生きがい活動支援通所事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成13年に、介護予防事業の必要性に対応するため、植野はつらつセンターの設立に始まり、旧田沼町、旧葛生町の施設を加え、7箇所で開催。令和3年度より、植野高齢者はつらつセンター、デイサービスからさわが一般介護予防事業へ移行したため、5箇所となった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	虚弱な高齢者に対する介護予防は、介護保険制度の中で地域支援事業として実施されている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	閉じこもり防止ばかりではなく、より介護予防として内容を充実させるよう市議会議員などから要望されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（コストの見直し）	具体的な見直し案の検討に至らなかった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	委ねている	妥当である	事業費・人件費共に削減の余地がある
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	一般介護予防事業	成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上の余地がない」ため取組の実績なし。			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
コロナ禍ではあったが、地域でのボランティアの参加や介護予防事業などとの連携が図られており、介護予防教室等の参加者が増加した。		実施団体に、一般介護予防事業への移行を促す。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業のやり方改善（コストの見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 委託料の大半が人件費や建物の賃借料など必要経費である。人件費については、必要最小限の人数で対応しているため、現状の委託方法では削減できないが、一般介護予防事業に移行することで、一般財源を削減することができる。	実施団体の理解を得る必要がある。
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				老人クラブ支援事業		本年度担当課	いきいき高齢課
						前年度担当課	いきいき高齢課
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	国県補助事業
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	義務的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業区分
	一般	03	01	03	老人クラブ支援事業		
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和40年度 ~		
根拠法令・条例等		佐野市老人クラブ等活動支援補助金交付要綱					

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
老人クラブを高齢者の社会参加と生きがい活動の推進組織として位置づけ、クラブの活動に対する補助を行う。				地域の自主的な組織である老人クラブを高齢者の社会参加と生きがい活動の推進組織と位置づけ、連合会などのネットワークづくりやクラブ活動に対して補助金を支出するとともに担当職員を配置し事業の支援を行った。						
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
		老人クラブ会員数	人	3,231	3,005	3,005	3,005	3,005		
		老人クラブ数	クラブ	91	87	87	87	87		
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
60歳以上の高齢者				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				60歳以上高齢者数	人	43,978	43,643	43,700	43,800	43,900
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
老人クラブの活動を通じて、仲間づくり、生きがいづくりを行う。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				平均クラブ会員数	人	目標 38 実績 36	37 35	37	37	37
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
地域で高齢者を支える人が増え、活動が推進される。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000 実績 56,600	84,200 56,908	106,300	128,400	150,500

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	2,254	2,131	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0			
	その他	千円	0	300	0	0	0			
	一般財源	千円	1,849	1,917	0	0	0			
	事業費計(A)	千円	4,103	4,348	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	4,348				
人件費	職員従事工数	人工	0	0.56	0	0	0			
	人件費計(B)	千円	0	4,081	0	0	0			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	4,103	8,429	0	0	0			

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	老人クラブ支援事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	佐野シニアクラブ連合会の発足以来、県補助金と合わせて補助金交付を開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口が年々増加しているが、シニアクラブの組織率は低下している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	市民からは「高齢者は地域福祉の担い手として重要な役割があり、シニアクラブの育成と支援はますます必要である。」という内容の要望があった。また、市議会定例会においても、シニアクラブに対する支援について、一般質問があった。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
休止	社会福祉法人等に対して、佐野シニアクラブ連合会の事務局業務を委託や移管を検討する予定であったが、令和4年度は検討に至らなかった。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
老人クラブ数、会員数を増やすための活動を行い、新しく2つのクラブが設立されたものの、休止するクラブがそれ以上出てしまった。		やり方の見直し等による成果向上の余地はほとんどないが、今後も会員数を増やせるような取組みは引続き実施して行く必要がある。また、役員を担う人材が不足しているため、人材を確保することが必要となる。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			休止 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 佐野シニアクラブ連合会の事務局を社会福祉法人等に委ねる（委託する）。	業務を委ねる社会福祉法人や佐野シニアクラブ連合会役員、単位老人クラブ会員の理解を得る必要がある。
	中				
	小		○		
	成果向上余地				



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		高齢者ふれあいサロン事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	いきいき高齢課	
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	実計計画事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいつくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			事業区分
	一般	03	01	03	高齢者ふれあいサロン事業			実施方法
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成13年度 ~			事業分類
								市長公約
								総合戦略
根拠法令・条例等		佐野市高齢者ふれあいサロン事業実施要綱						

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
高齢者が地域の中でいきいきとした生活ができるよう、高齢者と地域住民が、いきがい、健康づくり及び社会参加を共に促進することにより、高齢者の孤立感や不安感の解消を図る。					家に閉じこもりがちな高齢者に対し、地域の中でいきいきとした生活ができるよう、誰でも気軽に参加できる場として、老人クラブ等に委託し、「ふれあいサロン」を開設した。							
											活動指標	
					ふれあいサロン開設数		箇所	71	76	78	80	82
参加者数		人	40,586	40,845	49,000	58,500	68,000					
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
おおむね60歳以上の自立した生活を営む者					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
					60歳以上の高齢者数		人	43,978	43,643	43,700	43,800	43,900
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
閉じこもりを防止し、高齢者の孤立感や不安感の解消を図る					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					介護予防教室の延参加者数		人	目標 9,504 実績 5,022	10,008 6,767	10,500	10,548	10,560
					ハツラツ元気体操取組団体		か所	目標 50 実績 25	55 25	60	65	70
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
					ふれあいサロン参加者数		人	目標 62,500 実績 40,586	39,500 40,845	49,000	58,500	68,000
					老人福祉センター利用者数		人	目標 146,000 実績 56,600	84,200 56,908	106,300	128,400	150,500

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,211	2,523	0	0	0	
	一般財源	千円	1,114	1,169	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	3,325	3,692	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	3,692		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.26	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	1,895	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,325	5,587	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	高齢者ふれあいサロン事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成13年に、閉じこもり防止のため、市民からの要望により開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者の閉じこもり防止と社会参加を促すという趣旨で始まった事業であるが、高齢者を地域で支えていこうというように国・県の考え方も変わってきている。その中で、地域の元気な高齢者が虚弱な高齢者を支えていこうという事業の一つでもあり、より重要性を増している事業である。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	閉じこもり防止ばかりではなく、より介護予防として内容を充実させるよう市議会議員などから要望されている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業統合・連携	介護保険事業による通所型サービスBへの移行を図る。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	委ねている	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	訪問・通所等事業（通所型サービスB）	成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	
閉じこもりの防止や社会参加の促進が図られており、一定の成果が出ている。		シニアクラブ等を主体としたふれあいサロンは、後継者不足により、開設数が減少傾向にあるため、住民主体による通所型サービスBへの移行を図る。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	事業統合・連携 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 介護保険事業による通所型サービスBへの移行を図る。		実施団体の意向や町会の協力が必要である。	
	中						
	小						
	成果向上余地						

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		金婚記念式典開催事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	いきいき高齢課	
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいつくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	03	01	03	金婚記念式典開催事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和59年度 ~ 令和4年度			
根拠法令・条例等		佐野市金婚記念式典実施要綱						

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)													
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
結婚50年にあたる金婚を迎えるご夫妻を祝福するため、金婚記念式典を開催する。					結婚50年にあたる金婚を迎えるご夫妻を祝福するため、金婚記念式典を開催した。式典については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、規模を縮小し、慶祝状や記念品の配布のみとした。								
		活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
		式典参加者		組	39	41	-	-	-				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)													
市内在住で年内に結婚50年を迎えるご夫妻。					対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
					式典出席申込者数		組	58	65	-	-	-	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)													
結婚50年を迎えるご夫妻が、お互いに感謝し、長寿を祝い、生きがいをもってもらう。					成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					申込者に対する式典参加者の割合		%	目標 81.1	実績 67.2	-	-	-	
								目標 67.2	実績 63.1				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)													
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。					上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
					ふれあいサロン参加者数		人	目標 62,500	実績 40,586	39,500	49,000	58,500	68,000
					老人福祉センター利用者数		人	目標 146,000	実績 56,600	84,200	106,300	128,400	150,500

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	163	184	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	163	184	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					報償費	159		
					需用費	21		
				役務費	4			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.18	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	1,312	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	163	1,496	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	金婚記念式典開催事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和59年から敬老事業の一環として実施するようになった。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口、高齢化率ともに上昇している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	事業対象者から、お祝いをさせていただいてありがたいとの意見が多く寄せられている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
廃止	廃止についての検討ができなかったため、例年どおり事業を実施した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びつくが見直しの余地がある	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
コロナ禍もあり、式典の参加者数は伸びなかった。対象は高齢者であるため、直前で体調を崩し出席できないことがある。		対象者への式典の周知。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	廃止 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 事業廃止。	近年の社会情勢の変化により、市が実施する事業としては、公平性が保てないことから不適切であると考えられることや、県内でも市が実施している例が少ないことから令和4年度をもって事業廃止とした。		
	中						
	小						
	大      中      小 成果向上余地						

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名	高齢者生きがい工房運営事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
					前年度担当課	いきいき高齢課	
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	義務的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		
	一般	03	01	03	高齢者生きがい工房運営事業		
事業計画	単年度繰り返し		事業期間	平成5年度 ~			
根拠法令・条例等	佐野市高齢者生きがい工房条例、同施行規則						

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)								
高齢者の生きがいと趣味活動・社会参加を促進するため、各種の教養活動の場として設置された、高齢者生きがい工場の維持管理を行う。			高齢者の生きがいと趣味活動・社会参加を促進するため、各種の教養活動の場として設置された高齢者生きがい工場の維持管理を行った。								
活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)				
生きがい工場の利用回数		回	125	145	165	185	200				
利用者延べ人数		人	744	923	1,200	1,500	1,800				
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
おおむね60歳以上の高齢者			対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
60歳以上高齢者数			人			43,978	43,643	43,700	43,800	43,900	
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
地域の活動に参加してもらえる高齢者、介護をいっまでも必要としない高齢者を増やしていく。			成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			介護予防教室の延参加者数		人	目標	9,504	10,008	10,500	10,548	10,560
						実績	5,022	6,767			
			ハツラツ元気体操取組団体		か所	目標	50	55	60	65	70
						実績	25	25			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。			上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
			ふれあいサロン参加者数		人	目標	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
						実績	40,586	40,845			
			老人福祉センター利用者数		人	目標	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500
						実績	56,600	56,908			

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)						
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0						
	県支出金	千円	0	0	0	0	0						
	地方債	千円	0	0	0	0	0						
	その他	千円	0	0	0	0	0						
	一般財源	千円	682	682	0	0	0						
	事業費計(A)	千円	682	682	0	0	0						
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					需用費	547							
					委託料	73							
				使用料及び賃借料	39								
				役務費	24								
人件費	職員従事工数	人工	0	0.01	0	0	0						
人件費計(B)	千円	0	73	0	0	0							
トータルコスト(A)+(B)	千円	682	755	0	0	0							

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	高齢者生きがい工房運営事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成5年に、高齢者の生きがいづくりの一環として大橋生きがい工房が設立された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口、高齢化率ともに年々増加し、高齢者対策の重要性が増している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	議員より、生きがい工房は高齢者の生きがいづくりの場であるので、高齢者の活動の妨げにならないよう適切な施設の維持管理が要望された。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
受益者負担の適正化	受益者負担について引き続き検討していく。

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
本事業は、活動の場の提供であり、一定数の高齢者が利用しており成果はある程度出ている。コロナ禍もあり利用者数が減少していたが、徐々に活動する人が増えてきた。		適切な施設の維持管理。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	受益者負担の適正化		①②利用者の理解を得る必要がある。	
				* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	中			①受益者負担の適正化の方針に基づき、受益者負担について、検討する必要がある。			
	小			②大橋高齢者生きがい工房、葛生あくとしきがい工房との統合について、検討する必要がある。			
	大	中	小	成果向上余地			

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名				シルバー人材センター支援事業				本年度担当課	いきいき高齢課		
								前年度担当課	いきいき高齢課		
政策 体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり					新規・継続	継続事業		
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり					実施計画・一般	一般事業		
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現					市単独・国県補助	市単独事業		
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進					任意・義務	義務的事業		
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名				事業区分	実施方法	一部委託
	一般	03	01	03	シルバー人材センター支援事業				事業区分	事業分類	支援事業
事業計画		単年度繰り返し		事業期間		昭和58年度 ~				市長公約	該当なし
										総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 佐野市シルバー人材センター運営費補助金交付要領											

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
シルバー人材センターの適正な運営と事業の促進を目的として、運営費補助金を交付する。				佐野市シルバー人材センター運営費補助金 (運営費、事業費) を補助金として支出し、シルバー人材センターの支援を行った。						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				補助金額	千円	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000
				請負・委任就業延人数	人日	28,532	28,142	28,500	29,000	29,500
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
60歳以上の高齢者 佐野市シルバー人材センターの会員				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				60歳以上の高齢者数	人	43,978	43,643	43,700	43,800	43,900
				会員数	人	477	468	500	520	540
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
シルバー人材センターを利用した高齢者の臨時的・短期的な就業機会を確保する。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				会員数/60歳以上の高齢者数	%	目標 1.24 実績 1.08	1.24 1.07	1.24	1.24	1.24
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				ふれあいサロン参加者数	人	目標 62,500 実績 40,586	39,500 40,845	49,000	58,500	68,000
				老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000 実績 56,600	84,200 56,908	106,300	128,400	150,500

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0		
	県支出金	千円	0	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0	0		
	一般財源	千円	14,050	14,050	0	0	0		
	事業費計(A)	千円	14,050	14,050	0	0	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
					負担金、補助及び	14,050			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.07	0	0	0		
	人件費計(B)	千円	0	510	0	0	0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	14,050	14,560	0	0	0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	シルバー人材センター支援事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和58年シルバー人材センターが設立されて以来、国の補助金と同額の補助が開始された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口が年々増加しており、就業機会を求める高齢者も増加している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	市の合併に伴い3センターが1センターに合併され、補助金も段階的に減額されてきており、現在は1センター分の補助金になっている。経営が厳しい状況にあるので、市各課でシルバー人材センターに仕事を発注するよう要望が出ている。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持（従来通り実施）	現状維持

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
市がシルバー人材センターを支援することにより、高齢者の自立を促し、高齢者が生きがいをもって働くことができる場の提供ができているが、定年延長や高齢者の再雇用等社会情勢の変化により、会員数は減少傾向にある。		シルバー人材センターは、高齢者の雇用機会の創出、生きがいづくりの場の提供を行う団体であり、高齢者福祉の向上には不可欠であり、市で引き続き支援・育成を図るべきものである。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小		○		
成果向上余地					





**B表（事後評価シート）**

事務事業名	シルバーワークプラザ等指定管理事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成5年に、高齢者の生きがいがづくりの一環として大橋シルバーワークプラザが設立された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者の生きがいがづくりのための事業であるが、定年延長や高齢者の再雇用等が促進されるなど、社会情勢が変化している中で、事業の役割が変わりつつある。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（コストの見直し）	現状維持

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がない	取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
前年度評価結果が「成果向上余地がない」のため取組実績なし。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
コロナ禍もあり利用者数が減少していたが、徐々に活動する人が増えてきた。		本施設は、毎年一定の利用があり、ある程度の成果は出ているが、指定管理者による自主事業の割合が多く、本来の設置目的による利用が減少傾向にある。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業のやり方改善（コストの見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 ①田沼シルバーワークプラザ指定管理事業との事務事業の統合 ②使用料の設定	①②利用者や指定管理者の理解を得る必要がある。
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		高齢者生活路線バス運賃助成事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	いきいき高齢課	
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		事業区分	
	一般	03	01	03	高齢者生活路線バス運賃助成事業			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成20年度 ~		実施方法	一部委託
							事業分類	現金等給付事業
							市長公約	該当なし
							総合戦略	該当なし
根拠法令・条例等 佐野市高齢者生活路線バス運賃助成要綱								

1. 事務事業の現状把握【D0】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
高齢者の移動手段の確保と、外出支援を図るため、70歳以上の方に、生活路線バスを利用する際に後期高齢者医療被保険者証又は利用者証を呈示することで乗車運賃を150円助成した。				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				助成件数		件	17,512	19,225	21,000	23,000	25,000
				利用者証交付者数		人	612	566	600	650	700
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
70歳以上の方				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
70歳以上の高齢者				人			27,790	28,116	28,400	28,800	29,000
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
外出機会を確保し、健康を保ち、生きがいを持つ。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
70歳以上高齢者における利用率				% / 目標		実績	60	62	64	66	68
						目標	63	68.4			
						実績					
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ふれあいサロン参加者数				人		目標	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
						実績	40,586	40,845			
老人福祉センター利用者数				人		目標	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500
						実績	56,600	56,908			

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	2,663	2,884	0	0	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	2,663	2,884	0	0	0	0	0	0	0	
事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
				委託料	2,884							
人件費	職員従事工数	人工	0	0.09	0	0	0	0	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	656	0	0	0	0	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,663	3,540	0	0	0	0	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	高齢者生活路線バス運賃助成事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成20年10月から、市営バスが実験運行されるのに併せ、高齢者の移動手段の確保と、外出支援を図るため事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口、高齢化率ともに上昇しており、高齢者の移動手段の確保は、年々必要性が増している。令和元年10月より路線の一部にデマンド交通が導入され、令和2年度より、交通事業者主体の生活路線バスとして、運行形態が変わった。また、中山間地域のすべての路線でデマンド交通が運行される他、佐野地域においても一部デマンド交通が運行される。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	以前、年間40枚の助成券では少ない、増やしてほしいという要望が市民からあった。令和3年度から券を廃止し、後期高齢者医療被保険者証又は利用者証を提示すれば助成を受けられるよう変更し、助成回数を無制限とした。

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（成果向上の見直し）	現状維持

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がかなりある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
令和3年度から、助成回数の制限を解除し、高齢者の移動手段の拡充を図ったことで、利用件数は増加した。			成果向上余地がかなりある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
令和3年度から、助成回数の制限を解除し、高齢者の移動手段の拡充を図ったことで、利用率は増加している。		利便性の高い交通手段の確保や助成額の拡充、利用方法の周知が必要となる。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大	○		事業のやり方改善（成果向上の見直し） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 令和3年度から、助成回数の制限を解除し、高齢者の移動手段の拡充を図ったが、今後助成額の拡充を検討する必要がある。	利便性の高い交通手段の拡充と予算の確保。
	中				
	小				
	成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		佐野シニアクラブ連合会新型コロナウイルス感染症対策事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	高齢福祉係	
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	新規事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいつくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法	直営
	一般	03	01	03	佐野シニアクラブ連合会新型コロナウイルス感染症対策事		事業分類	支援事業
事業計画		単年度のみ		事業期間	令和4年度 ~ 令和4年度		市長公約	該当なし
根拠法令・条例等		なし						
区分						総合戦略	該当なし	

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）										
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）						
佐野シニアクラブ連合会会員の団体に対し、非接触式体温計、消毒液を支給し、団体活動時の感染症対策を支援する。				佐野シニアクラブ連合会会員の団体に対し、非接触式体温計、消毒液を支給し、団体活動時の感染症対策を支援した。						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				非接触式体温計	個	0	85	0	0	0
				消毒液	本	0	3,000	0	0	0
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）										
佐野シニアクラブ連合会会員				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				会員数	人	3,231	3,005	3,005	3,005	3,005
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）										
感染症対策を行いつつ、シニアクラブの活動を通じて、仲間づくり、生きがいつくりを行う会員について、会員数の維持・増加を図る。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				平均クラブ会員数	人	目標 38	38	38	38	38
						実績 36	35			
						目標				
						実績				
④結果（どのような結果に結びつきますか？）										
地域で高齢者を支える人が増え、活動が推進される。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000	84,200	106,300	128,400	150,500
						実績 56,600	56,908			
						目標				
						実績				

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	1,111	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	1,111	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					需用費	1,111		
人件費	職員従事工数	人工	0	0.04	0	0	0	
	人件費計(B)	千円	0	291	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	1,402	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	佐野シニアクラブ連合会新型コロナウイルス感染症対策事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	高齢福祉係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	シニアクラブの活動の際の感染症対策は各クラブが個別で対応していたため、事務局として支援する必要がある。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	シニアクラブの活動は一時期より増加しつつあり、集団での活動が活発になることで、クラスターが発生する恐れがある。また、コロナ禍に終わりが見えないため、先行きは不透明。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特に意見はなかった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
	新規事業のためなし。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
感染症対策を行うことで、シニアクラブの活動を安心・安全に実施できた。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
コロナ禍に終わりが見える状況ではなく、クラブの活動も活発ではなかったため、会員数を増やすことはできなかった。		事業終了。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業終了 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	
	中				
	小				
	大 中 小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名 田之入老人福祉センター受電設備改修事業				本年度担当課		いきいき高齢課	
				前年度担当課		いきいき高齢課	
政策 体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	新規事業
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	義務的事業
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名		
	一般	03	01	04	田之入老人福祉センター受電設備改修事業		
事業計画		期間限定複数年度		事業期間	令和4年度 ~		
根拠法令・条例等							

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方) 特別管理産業廃棄物の一つであるPCB廃棄物については、法律により令和8年度までに全量廃棄処理することが義務付けられている。 田之入老人福祉センターで稼働している変圧器及び遮断機については、令和5年度が処分実施予定年度となっていることから、令和4年度に更新工事を実施し、令和5年度に運搬・処分を実施する。				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)							
				令和4年度は機器の更新 (撤去) 工事を行った。							
		活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
		受電設備改修工事件数	件	0	1	0	0	0			
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
当該施設の利用者				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
利用者				人	4,810	4,691	4,800	5,000	5,200		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)											
利用者へのサービスの提供				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				開館日数	日	目標	297	296	296	296	296
						実績	297	296			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)											
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な活動に参加してもらう。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				老人福祉センター利用者数	人	目標	146,000	39,500	49,000	58,500	68,000
						実績	56,600	56,908			

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	0	7,689	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	0	7,689	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					工事請負費	7,689		
	人件費	職員従事工数	人工	0	0.06	0	0	0
	人件費計(B)	千円	0	437	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	8,126	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	田之入老人福祉センター受電設備改修事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成28年度の財産活用課による「PCB廃棄物の再調査」の後、田之入老人福祉センターの変圧器等が低濃度のPCB混入機器と判明した。廃棄物は、市全体としてスケジュールを決めており、令和4年度に機器の撤去・更新工事、令和5年度に運搬・処分することになっている。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	毒性のあるPCB廃棄物について、令和8年度までに処分することが法律により定められ、国が中心となって中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）を活用して、処理施設を全国5箇所に整備し、計画を定め、順次解体処分している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
田之入老人福祉センターで稼働している変圧器及び遮断機についてを機器の撤去・更新工事を実施した。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
低濃度のPCB廃棄物に関しては、市全体としてスケジュールを決めて実施している。令和4年度に機器の撤去・更新工事を行った。		令和5年度に今回撤去した変圧器及び遮断機の運搬・処分をすることになっている。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大	○		現状維持（従来通り実施） * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 スケジュールどおり、変圧器及び遮断機の運搬・処分実施する。	特になし。		
	中						
	小						
	成果向上余地					大 中 小	



## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		高齢者福祉センター等指定管理事業				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	いきいき高齢課	
政策 体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	義務的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			事業 区分
	一般	03	01	04	高齢者福祉センター等指定管理事業			実施方法
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	昭和47年度 ~			事業分類
								市長公約
								総合戦略
								該当なし
根拠法令・条例等 佐野市高齢者福祉センター条例、佐野市高齢者福祉センター施行規則								

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)												
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)									
高齢者福祉の増進を図るため、及び高齢者の社会参加を促進するため、佐野市高齢者福祉センターを設置する。 ・指定管理者 佐野市社会福祉協議会 (株)HSコーポレーション ・事業内容 レクリエーション又は集会のための施設の提供 教養向上のための講演会及び講習会の開催 生活相談、健康相談その他各種相談			施設の管理運営。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、事前予約制による浴場利用を中心として、高齢者の健康増進を図った。		活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
			利用者数	人	56,600	56,908	106,300	128,400	150,500			
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)												
おおむね60歳以上の高齢者			対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)		
			60歳以上の高齢者数		人	43,798	43,643	43,700	43,800	43,900		
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)												
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。			成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
			ふれあいサロン参加者数	人	目標 62,500 実績 40,586	39,500 40,845	49,000	58,500	68,000			
			老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000 実績 56,600	84,200 56,908	106,300	128,400	150,500			
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)												
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。			上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
			ふれあいサロン参加者数	人	目標 62,500 実績 40,586	39,500 40,845	49,000	58,500	68,000			
			老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000 実績 56,600	84,200 56,908	106,300	128,400	150,500			

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	137,636	138,778	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	137,636	138,778	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	134,949		
					工事請負費	2,272		
				需用費	1,505			
				役務費	53			
人件費	職員従事工数	人工	0	0.39	0	0		
	人件費計(B)	千円	0	2,842	0	0		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	137,636	141,620	0	0		

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	高齢者福祉センター等指定管理事業	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和53年に、茂呂山老人福祉センターが設立され、開始された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口、高齢化率ともに年々増加し、高齢者対策の重要性が増している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善（コストの見直し）	現状維持

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければできない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない		成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
多くの高齢者が憩いの場として利用しており、サークル活動を充実させることで、利用者が減らないよう工夫をして施設の運営を図った。			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
多くの高齢者が憩いの場として利用しており、サークル活動を充実させることで、利用者が減らないよう工夫をして施設の運営を図った。		利用者が楽しめて、生きがいづくりや健康増進につながるような講座やイベントの開催。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	受益者負担の適正化 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 施設の利用料金の改定	これまで多くの利用者が無料で入館できていたことから、利用者の理解を得る必要がある。
	中				
	小				
	大      中      小 成果向上余地				

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名 敬老会開催事業		本年度担当課		生涯学習課			
		前年度担当課		生涯学習係			
政策体系	基本目標	03 健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03 助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01 豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01 社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算科目	会計	款 項 目 予算事業名				実施方法	直営
	一般	10	04	02	敬老会開催事業	事業分類	イベント等開催事業
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成17年度 ~		
根拠法令・条例等		老人福祉法					

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）												
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）				令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）								
高齢者に対し記念品を配布してねぎらうとともに、敬老会の実施団体を支援することで地域住民に対して敬老精神の高揚を図る。敬老会は地区単位で9月～10月にかけて公民館、小学校、コミュニティ施設等で開催する。				・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策により式典を中止したが、記念品の配付は実施した。 ・敬老会記念品（招待20周年である95歳）の抽出、記念品を購入し、対象者に配付した。								
				活動指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
				敬老会該当者調査委託回数	回	1	1	1	1	1		
95歳記念品購入回数	回	1	1	1	1	1						
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）												
敬老会を開催する団体				対象指標		単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
対象敬老会団体数				団体			22	22	22	22	22	
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）												
各地区で実施されている敬老会開催を円滑に進められるよう支援する。				成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				円滑に敬老会が実施された割合		%	目標	100	100	100	100	100
							実績	100	100			
							目標					
			実績									
④結果（どのような結果に結びつきますか？）												
高齢者に生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。				上位成果指標		単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
				ふれあいサロンに参加した高齢者の延人数		人	目標	62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
				老人福祉センター利用延人数		人	目標	146,000	84,200	106,300	128,400	150,500
							実績	56,600	56,908			

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)		R4年度 (実績)		R5年度 (目標)		R6年度 (目標)		R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0		0		0		0		0	
	県支出金	千円	0		0		0		0		0	
	地方債	千円	0		0		0		0		0	
	その他	千円	0		0		0		0		0	
	一般財源	千円	1,013		1,186		0		0		0	
	事業費計(A)	千円	1,013		1,186		0		0		0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					委託料	711						
					報償費	460						
				需用費	16							
人件費	職員従事工数	人工	2		2		0		0		0	
	人件費計(B)	千円	14,654		14,574		0		0		0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	15,667		15,760		0		0		0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	敬老会開催事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	敬老会自体は昭和50年代頃から、各地域において敬老精神の高揚を図ることを目的として開始された。なお、合併後は公民館事務局に予算組み替えを行い、主催が実行委員会等の団体に移行した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	人口構成の急激な変化により超高齢化社会を迎え、対象の高齢者は年々増加し、独居高齢者の割合も増えている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	敬老会の記念品配付について、町会などから負担になっているという指摘をいただいている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業統合・連携	令和5年度より、いきいき高齢課へ事務移管することとなった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	敬老祝金贈呈事業	成果向上余地がある程度ある	向上した
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がある程度ある
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策	
目標達成度	大		○	事業統合・連携		限られた財源で、高齢者の方々に満足していただけるような事業を実施することが最大の課題である。	
	中			* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。			
	小			いきいき高齢会に事業を移管し、他の高齢者福祉事業との統合・連携を図る。			
		大	中	小	成果向上余地		

# 事務事業マネジメントシート

事務事業名		敬老会開催支援事業				本年度担当課	生涯学習課
						前年度担当課	生涯学習係
政策体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	任意的事業
予算科目	会計	款	項	目	予算事業名		実施方法
	一般	10	04	02	敬老会開催支援事業		事業分類
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成17年度 ~		市長公約
							総合戦略
根拠法令・条例等 老人福祉法							

## 1. 事務事業の現状把握【D0】

### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段 (事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要 (具体的な事務事業の活動内容・進め方)				令和4年度実績 (令和4年度に行った主な活動内容)						
高齢者に対し記念品を配布してねざらうとともに、敬老会の実施団体を支援することで地域住民に敬老精神の高揚を図る。 敬老会は9月~10月にかけて地区の公民館、小学校、コミュニティ施設等で開催する。				(市の活動) 敬老会実施団体に、運営交付金を交付するための手続きを実施した。 (敬老会開催団体の活動) 新型コロナウイルス感染症対策により、式典は中止としたが記念品の配布は実施した。						
				活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				交付金の交付回数	回	1	1	1	1	1
②対象 (この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
敬老会を開催する団体				対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
				敬老会対象団体数	団体	22	22	22	22	22
③意図 (この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
各地区で実施されている敬老会開催を円滑に進められるよう支援する。 交付金の効率的な運用を推進する。				成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				交付金を有効活用した団体の割合	%	目標 100	100	100	100	100
						実績 100	100			
						目標				
						実績				
④結果 (どのような結果に結びつきますか?)										
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。				上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
				ふれあいサロンに参加した高齢者の延人数	人	目標 62,500	39,500	49,000	58,500	68,000
						実績 40,586	40,845			
				老人福祉センター利用延人数	人	目標 146,000	84,200	106,300	128,400	150,500
						実績 56,600	56,908			

### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)	
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	県支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	10,130	10,590	0	0	0	
	事業費計(A)	千円	10,130	10,590	0	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					負担金、補助及び	10,590		
	人件費	職員従事工数	人工	2	2	0	0	0
	人件費計(B)	千円	14,654	14,574	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	24,784	25,164	0	0	0	

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	敬老会開催支援事業	本年度担当課	生涯学習課
		前年度担当課	生涯学習係

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	敬老会自体は昭和50年代頃から、各地域において敬老精神の高揚を図ることを目的として開始された。なお、合併後は公民館事務局に予算組み替えを行い、主催が実行委員会等の団体に移行した。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	人口構成の急激な変化により超高齢化社会を迎え、対象の高齢者は年々増加し、独居高齢者の割合も増えている。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	敬老会の記念品配付について、町会などから負担になっているという指摘をいただいている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業統合・連携	令和5年度より、いきいき高齢課へ事務移管することとなった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びついている	市でなければならない	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑦成果向上余地前年度評価結果	⑧左記に対する取組結果
類似事務事業があり統合・連携できている	敬老祝金贈呈事業	成果向上余地がある程度ある	向上した
⑨取組結果の理由			⑩事務事業の成果向上余地
			成果向上余地がある程度ある
⑪A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑫目標達成に向けて必要となる取組内容	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大		○	事業統合・連携 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 いきいき高齢課に事業を移管し、他の高齢者福祉事業との統合・連携を図る。	限られた財源で、高齢者の方々に満足していただけるような事業を実施することが最大の課題である。
	中				
	小				
		大	中	小	
		成果向上余地			

## 事務事業マネジメントシート

事務事業名		リフレッシュシルバーエイジ演芸大会				本年度担当課	いきいき高齢課	
						前年度担当課	いきいき高齢課	
政策 体系	基本目標	03	健やかで元気に暮らせるまちづくり			新規・継続	継続事業	
	政策	03	助け合い生きがいを実感できるまちづくり			実施計画・一般	一般事業	
	施策	01	豊かで健やかな長寿社会の実現			市単独・国県補助	市単独事業	
	基本事業	01	社会参加の支援と生きがいづくりの促進			任意・義務	任意的事業	
予算 科目	会計	款	項	目	予算事業名			
	一般	XX	XX	XX	リフレッシュシルバーエイジ演芸大会			
事業計画		単年度繰り返し		事業期間	平成12年度 ~			
根拠法令・条例等								

### 1. 事務事業の現状把握【D0】

#### (1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段（事務事業の主な活動内容を記入します。）																
事業概要（具体的な事務事業の活動内容・進め方）			令和4年度実績（令和4年度に行った主な活動内容）													
高齢者が健康で潤いのある生活が送れるように、趣味と文化活動の発表の場を提供し、演芸大会を開催する。			高齢者が健康で潤いのある生活が送れるように、趣味と文化活動の発表の場を提供し、演芸大会を開催するため、参加者募集に向けた事前準備を行ったが、令和元年度は台風被害により、令和2、3、4年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となった。													
										活動指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)
										演芸大会の参加者数	人	0	0	300	300	300
②対象（この事務事業は誰・何を対象としていますか？）																
おおむね60歳以上の方			対象指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)							
			60歳以上の高齢者数	人	43,978	43,643	35,931	35,995	36,059							
③意図（この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？）																
趣味や文化活動などの発表の機会を得ることにより、充実した生活を維持する。			成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
			演芸大会参加者の割合	%	目標 0.7	0.7	0.8	0.8	0.8							
					実績 0	0										
④結果（どのような結果に結びつきますか？）																
生きがいをもって生活してもらうとともに、多様な社会活動に参加してもらう。			上位成果指標	単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度							
			ふれあいサロン参加者数	人	目標 62,500	39,500	49,000	58,500	68,000							
					実績 40,586	40,845										
			老人福祉センター利用者数	人	目標 146,000	84,200	106,300	128,400	150,500							
		実績 56,600	56,908													

#### (2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (目標)	R6年度 (目標)	R7年度 (目標)			
	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0			
	県支出金	千円	0	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0	0			
	一般財源	千円	0	0	0	0	0			
	事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
人件費	職員従事工数	人工	0	0.02	0	0	0			
	人件費計(B)	千円	0	146	0	0	0			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	146	0	0	0			

**B表（事後評価シート）**

事務事業名	リフレッシュシルバーエイジ演芸大会	本年度担当課	いきいき高齢課
		前年度担当課	いきいき高齢課

**(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等**

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成12年、老人クラブからの要望により、県老連サークル活動発表会の予選会を兼ねて開始された。
②事務事業を取り巻く環境（対象者や国・県などの法令等、社会情勢など）は事務事業の開始時期と比べてどのように変化していますか？	高齢者人口が増加傾向となっているが、参加団体や参加者は減少している。
③この事務事業に対して、当該年度中、関係者（市民、議会、事務事業対象者）からどのような意見・要望がありますか？	特になし

**(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組**

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組

**2. 事務事業の事後評価【Check】**

①政策体系の整合性	②実施主体の妥当性	③対象・意図の妥当性	④事業費・人件費の削減余地
結びつきが見直しの余地がある	業務全てを委ねられる・委ねられる可能性がある	妥当である	削減の余地はない
⑤類似事務事業との統合・連携の可能性	⑥類似事務事業の名称	⑥成果向上余地前年度評価結果	⑦左記に対する取組結果
類似事務事業はない			取組むことができなかった
⑧取組結果の理由			⑨事務事業の成果向上余地
コロナ禍により、開催中止となったため。			成果向上余地がない
⑩A表の成果指標の目標が達成できた理由、できなかった理由		⑪目標達成に向けて必要となる取組内容	
令和2年度からコロナ禍により中止となっている。令和4年度は参加者について広報で募集したものの、活動しているクラブが少なく、参加者が集まらなかった。		数年ぶりの開催となるため、参加クラブの活動状況の把握。参加者への周知。	

**3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】**

(1) 事務事業の評価結果				(2) 今後の事務事業の方向性	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題（壁）とその解決策
目標達成度	大			廃止 * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。	参加者の理解を得る必要がある。
	中				
	小		○	事業を廃止する。	
	成果向上余地				